

石岡市議会 議長賞

「粘り強く生きる」

国府中学校 二年 信田 太都（しだ たいと）

私が考えた社会を明るくするため
の方法は、人を大切にすることです。

私の母は保育士をしています。以前
に「なんで幼稚園の先生になったの？」

と聞いたことがあります。母は、「子どもが好きだからだよ」と言っていました。保育というのは誰かの親に信頼されての仕事だと私は思います。信頼されるためには子どもを大切にすることが重要です。ただ、子どもの中には言うことを聞かないやんちゃな子もいることでしょう。そんな子どもを大切にできるのは、「子どもが好き」この気持ちがあるからだと思います。つまり明るく生活するためには気持ちが必要ということが分かります。たとえどんな人でも大切な何かができればきつと自然と気持ちもついてくるこ

とでしょう。

でも、大切なものなどなく何もかも
うしなってしまうた人はもう「終わり」
なのでしょいか。

私はまだ可能性は無限にあると思
います。たとえ人生の道をふみ間違え
てしまっても未来のことなど誰にも
分かりません。もちろん一番いいこと
は人生の道をふみ間違えないことな
のですが、そううまくいくとは限りま
せん。何億、何兆でも表せないほどの
生き方があるのですから。

そこで私は何もかもをうしなって
しまった人の生き方も考えます。

さきほど述べた「可能性は無限にあ
る」は、すべてが、自分にとってプラ
スになるということではありません。
ふみ間違えた後でも周りの環境や人

との関わり方でもっと大きくふみ間
違えることにもなりかねません。自分
から積極的に道を戻していくしか
ないからです。でもそれを一人でやる必
要はないと思います。

あの人つらそうだな、あいつ最近元
気ないかなど周りの人の気づきで道
を戻す手助けをすることができま
す。始めに社会を明るくするためには、
人を大切にすると述べましたが、やは
りどの視点から見ても人を大切にす
ることはとても大事なことで分か
りました。私の周りにいるつらそう
な人に積極的に声をかけていきたいと
思いました。

